

わんど1 地域連携推進会議記録

日時 : 2025年11月17日(月曜) 13:30~16:20

場所 : わんど1 交流室(105号室見学)

参加者 : 高橋氏・舟橋氏(小鳩会)、原氏・石井氏(憩いの家えんじえる)、
S氏(わんど利用者)、小林・白倉大地

(開催前に参加者は誓約書への署名を行う)

1.開会あいさつ

2.自己紹介

3.チェックリストを配布。

項目全てを聞く必要はなく、別のことも聞いていい。わんど利用者への質問は利用者が答えられる範囲で。利用者が話したくなさそうだと感じた場合は、職員から質問への回答を断ることもある。

4.レジュメに沿って趣旨などの確認。

地域連携推進会議の経緯・趣旨の説明：詳細は別紙参照

①地域連携推進会議は、総合支援法の改正で創設された。その人らしく暮らしていく体制を構築するという目的。地域移行やその人らしい生活という支援の実現を盛り込んでいるそのためには、地域の視点が大切。居住系のサービスは外部の目を入れ、適正に運営する必要がある。それを実現するための会議。

②地域連携推進会議の目的・内容・効果：別紙参照

③パンフレットを用いてGHとわんどについて説明。

入居期限・入院可能期限・わんどの支援内容や一般的なGHについての説明を行った。

参加者：わんどは精神のホームで対象者は精神障害のみ？

→精神障害があり、精神科受診している方が対象。

5.居室見学

105号室(空き室)を見学。わんどや他のGHの設備や日中活動の意義、決まり・ホームでの生活・身体障害の併発の場合の対応・外泊・居室の現状回復などについての質問が出る。

→わんどや一般的なGHの方針やケース、制度についての説明を行った。

6及び7. 質疑応答兼意見交換、情報共有

①施設への質問

参加者:地域連携推進会議はチェックとモニタリングが目的か。

→チェックやモニタリングを通じて施設の透明性、支援の質の確保、そして地域とのつながりを作っていくことが目的。利用者の方が意思決定できるような支援をしているか、きちんと計画を立てているか、計画の沿った支援をしているのか、虐待や虐待につながるような事は起きていないか、そして職員は働きやすい環境で働いているかを外部の方に見ていただきたい。グループホームは生活の場という特性上、他者の目が入りにくいので地域のご家族の目を入れる事が大切。長く福祉の業界にいと職員は世間一般の常識とずれてしまうことがあるので、そのズレを見直す良い機会と考えている。

小林:最近の運用では、記録をクラウド管理に変えたが、リアルタイムに記録を読めるという利点がある。コロナはカンファレンスの開催が難しいなど苦しいことが多かったが、zoomの利用などオンライン化に繋がったという利点はあった。

参加者:グループホームは横のつながりがないのか？

→西東京市内は作業所時代（初期のたなし工房）から横の繋がりがあり、グループホームが増えてからは西東京市のホーム連も立ち上げた。ホーム連はコロナで休止した期間もあったがオンライン利用で復活した。横の繋がりは制度の確認や施設での困りごとなどを共有できるため、必要。

参加者:どこのホームも賃貸アパートでプライベートが確保されるのか。自分が見たところは部屋は個室だが風呂は共有という所もあった。

→わんどは賃貸アパートタイプだが、一軒家シェアタイプもある。施設によっては賃貸ではなく自前の物件を持っているところもある。アパートタイプかどうかも含めて都内のグループホームの情報は都ホーム連ホームページで見ることができる。（都のホーム連について説明）

参加者:国や都の福祉の制度やその変更のしかた、運用はどうなっているのか。

→制度が変更があるとメールで通知が来る。制度などへの要望はホーム連対都要望などで伝えている。自治体ごとにマイナールールがあるため、個別の話は各自治体の障害福祉課に確認し、必要に応じて要望も伝えている。

参加者:滞在と通過の違いは。

→制度を説明する。滞在型は支援が長期に渡り必要な人が利用すべきだが、人員の問題から支援の少ない人の方が入りやすいという矛盾が生じている。

参加者:障害福祉サービスと介護保険の違い。

→制度について説明する。

参加者:（西東京市の）支給決定はどのようになっているのか。

→支給決定の制度、西東京市独自の運用について説明する。

②メンバーへの質問

Sさん:部屋では絵を描いて過ごしている。漫画家を目指していた。ストーリー漫画をマーガレットに投稿して特星を取ったが、親から漫画家は生活が厳しいと言われて、PCの

会社に入った。新聞にイラストが載ったことがある。

→**参加者**：できることを発信して価値を見出すことが、これからの福祉に求められる課題だと思う。

Sさん：お経を大声で読んでいたら注意された。

→そのときは調子が悪く大きな声を出してしまうことが多かったので病院に同行して、その場で大きな声を出さずに過ごしてほしいと話をした。必要に応じて受診同行などの支援も行っている。

参加者：不安なことは？

→**Sさん**：（わんど卒業後の）次の行き先。

→関係者会議を開いて次の住まいを探し始めることになったことをSさんに確認しつつ、参加者にも説明。関係者会議が何か、誰がどこでどのように行うのかについての説明。

③職員への質問

Sさん：日曜日に交流室に人がいないのが困っている。

→日曜日は職員が一人体制であることと、その理由を説明。

参加者：人手不足はあるか。

→ある。以前常勤の募集を出したときに1年以上応募がなかった。現在は非常勤募集をしていて、応募があった。

参加者：福祉タイミーの利用はあるか。

→仕事内容を教える手間や、支援をするためにはメンバーのことをしっかりと把握している必要があるので、現状としてタイミーなどの利用は難しい。メンバーの個人情報の取り扱いの観点からも難しい。

参加者：職員とメンバーの割合は？

→わんどの現状と人員体制の制度の説明。

※その他、最近の利用者の障害の傾向、政治家への働きかけなどの質問や意見が出された。

8.閉会のあいさつ

以上

わんど2地域連携推進会議記録

日時 : 2025年11月24日(月・祝)13:30~15:30

場所 : わんど2交流室(B201,B202号室見学)

参加者 : 山本氏(小鳩会)、向井氏(ミモザハウス)、
N氏・U氏(わんど利用者)、小林・岡

(開催前に参加者は誓約書への署名を行う)

1.開会あいさつ

2.自己紹介

Nさんは卒業間近、Uさんは入居して数か月と紹介する。

3.チェックリストを配布。

4.レジュメに沿って趣旨などの確認。

・地域連携推進会議の経緯・趣旨の説明：詳細は別紙参照

小林：日中活動先では人の目が入る。グループホームでは密室になる。外部の目を入れることによって、透明性を確保し利用者にとって不利益にならないように、チェックしていただける機会。またグループホームを知って頂く、認知してもらうことにもつながる。職員にとっても、気づきのきっかけにもなり、運営の改善、質の向上につながる。プライバシーや個人情報の取り扱いについても書面をしていただいた通り、知りえた情報を無断で他者に漏らさないようお願いする。

・グループホームわんどのパンフレットを使用し、施設の説明をおこなう。

山本さん：(利用料一部負担が発生するという説明で)収入とは？

小林：本人の働いて得た収入。年金、生活保護、親からの支援は含まない。

山本さん：家賃はかからない？利用料は？

小林：自治体から出る。収入があっても家賃はかからない。利用料は全員頂く。防災用品などを購入し、配布したりしている。

山本さん：グループホームで2、3年過ごして自立できるのか？グループホームでは家賃がかからなくとも、外に出ると家賃は必要。

小林：金銭的には自立できなくても、アパートで家賃がかかるときに年金や収入だけで足りなければ、生活保護を受けたりすることもできる。お金についてどうしていくか、卒業前に考えている。

山本さん：(卒業後の行先)希望としては、滞在型が多い？

小林：人によって違う。一人暮らしを目指して入居され一人暮らしに移行する方もいる

し、滞在を希望される人もいます。

山本さん：週三回の日中活動とは？

小林：デイケア、就労継続などになる。ボランティア活動やスポーツジム、図書館などは日中活動に含まない。生活リズムが崩れることが体調の悪化につながることもあるため、決まった日数、決まった場所に行き生活リズムを整えていただく。

山本さん：食事はどうしているのか？

Uさん：月・火、水はサポートハウス年輪の宅配弁当。昼はデイケアで。朝は納豆ご飯やパンを食べている。野菜を炒めて食べたりしている。

Nさん：朝は牛乳、コーヒー。昼は会社の売店で買っている。夜は冷凍食品や、鮭を焼いたり、簡単に食べれるものでやっている。

山本さん：バラバラですね。ちゃんと食べているとかチェックはしている？

小林：アパートタイプなので食事の確認は難しい部分。安否確認で薬、食事は摂っていますか？と本人を聞いたり、訪問看護の方に確認してもらったり。

山本さん：自分でちゃんとやればいはいけれど、セルフネグレストということもある。

Nさん：訪問看護が週2回来てくれて、薬や血圧など測ってくれる。

小林：訪看は必要な人には入ってもらっている。訪問回数も人それぞれ。

Uさん：慈雲堂のデイケアに参加している。ほとんど毎日、用事がない時は午前午後のプログラムに参加している。午前は体操、午後は調理でおやつを作ったりして。そうすると毎日外出している。

5. メンバー居室の見学

・Uさんと、Nさんの部屋を見学。

山本さん：ゴミ捨てでトラブルはないですか？

小林：分別が難しい人は一緒に行く場合もあります。暖房器具で、エアコン以外は使用不可。防炎のカーテン、カーペットを使用してもらう。

6. チェックリストを使って質疑応答

山本さん：自分の計画を作成するとあるが？

小林：グループホームでは個別支援計画というものを作成する。将来の希望に向かってグループホームで何を練習するか、日中活動、生活、金銭管理など項目ごとに目標と計画を作り、最低半年に1回は見直しをしている。

Nさん：（目標を）仕事をしながら体調を崩さないように、としていた。最初は自炊をするにしたが、できなかった。体調、金額などの目標を高く立てたが、バランスをとって計画で軌道修正した。

山本さん：（Nさんに対して）服薬管理などあるのか。

Nさん：服薬管理はしてもらっていない。自分でちゃんと飲んでいる。飲み忘れたら相談したりしている。

山本さん：困ったことは誰に相談しているのか？

Nさん：ここ（グループホーム）にいる間は、近くの人（世話人）。支援計画上ではわんどを出たときに誰に相談するかのトレーニングで、デイケアの支援者、訪看に相談する。

山本さん：計画はどこで作っている？

小林：個別支援計画は本人の希望を踏まえて、本人、GH、その他の支援者で会議をして決めている。本人とグループホームだけでなく関係機関も含めて一つのチームとして計画を立てて支援をしている。

Uさん：（困った時には）世話人に相談する。主治医にも話をしたりする。

山本さん：慈雲堂の先生とはどのくらいの頻度で会っていますか？

Uさん：最初は毎週だったが、今は二週間に一回になった。近況を話したり、興味、関心あることも話す。デイケアでは認知行動療法や、心理教育、カラオケも色々ある。

山本さん：外出して帰ってこない人などはどうするのか？

小林：毎日安否確認をしている。基本は対面での安否確認、本人が不在の場合は電話をして、電話が繋がらない場合は職員が合鍵を利用し、部屋で倒れていないか確認する。

山本さん：個人情報はどう管理しているか？

小林：日々の記録も含めて情報はクラウド管理することが多い。印刷物や預かっているお金や通帳などは鍵付きの場所に保管している。

向井氏：グループホームに入って良かったことは？

Nさん：病気になって実家で生活していて、自分で生活できない時紹介された。どう生活するのか、一人でできるのか不安だった。（生活は）自立してできることが多いが、人の見守りががないのが不安だった。世話人が居て、何かあった時に相談できる。安心して生活できる。一人だと生活リズムを崩してしまう。管理されている訳ではないが（生活が）崩れると相談できる。生活リズムもまだ、良い時と悪い時との波がある。これからどうするのかという不安があるが、概ね働きながら生活できたので、一人暮らしのステップとしていい機会だったと思う。

山本さん：職員は勤務してから長いのか？勤務して大変だったことは？

岡：非常勤から入り常勤としては2年経たないくらい。他の職員は長い。困ったのは一人勤務のとき、利用者の具合が悪くなって、夕方の遅い時間で病院もすぐに受診できない状況のとき。携帯などで他の職員と連絡を取るなどの対応をした。

小林：勤務年数は長い方もいればまだ入職して間もない方もいる。

山本さん：虐待という話も他ではあった。なぜ虐待が起きるのかな…と。

小林：虐待はもちろんあってはならないことだが、虐待研修を通じて虐待が起こらないためには職場環境が大切という話が合った。職員が一人で困りごとを抱え込んでしまうことが虐待につながることもある。職員が良い状態で勤務できるように、またこの会議で地域の人に見ていただくことで風通しの良い環境にすることが虐待を防ぐことにつながるのではないかと思っている。

8. 閉会のあいさつ